社協発足60周年記念事業

# 第27回 市民福祉講座

人生80年時代を迎え、社会環境も家庭環境もさまざまに変化しています。人は人との関わりの中で、一喜一憂しながら、さまざまな価値観をもって生きています。どう生きるかを問う意味で、

「一人ひとりが輝いて生きる」

をテーマに開催します

赤穂市総合福祉会館3階集会室
3回シリーズ
**受講料 1,000円**

## No.1 7/16[土] 午後1時30分～3時30分

### 『高齢社会を良くするための処方箋』

— 介護保険の現在・過去・未来 —

高齢社会をよくする女性の会理事長　樋口　恵子氏

1932年東京生まれ。東京大学文学部美学美術史学科卒業・東京大学新聞研究所本科修了。
時事通信社・学習研究社・キャノン株式会社を経て、現在、評論家。NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長。東京家政大学名誉教授・「高齢社会NGO連携協議会」代表、内閣府男女共同参画会議議員、「仕事と子育て両立支援専門調査会」会長、社会保障国民会議委員、内閣府参与などを歴任。
現在、社会保障審議会医療保険部会委員、高齢者医療制度改革会議委員。
「祖母力」(新水社)、「私の老い構え」(文化出版局)、「女、一生の働き方」(海竜社)など著書多数。

## No.2 7/23[土] 午後1時30分～3時30分

### 『地域医療の12年を顧みて』

— 「孤高のメス」の作家が語る —

ペンネーム　おおがね なるひこ

南あわじ市立阿那賀診療所長　医師・作家　大鐘　稔彦氏

1943年 愛知県生まれ。1968年 京都大学医学部卒業　母校の関連病院を経て上京、民間病院の責を担う。1978年「日本の医療を考える会」を起会。癌の告知問題に取り組む。1989年「癌患者のゆりかごから墓場まで」をモットーにホスピスを備えた病院を創立。手術をリアルタイムのビデオで公開する初の試みなど時代を先取る医療を手掛ける。“エホバの証人”の無輸血手術68件を含め。約6千件の手術経験を持つ。1999年からの現職。医学学術書の他、小説、エッセイなど著書多数。「孤高のメス」はミリオンセラーとなり昨夏映画化、乳癌に見舞われた看護師の生と愛を描いた「緋色のメス」も10万部を超えベストセラー。

## No.3 8/6[土] 午後1時30分～3時30分

### 『支える側が支えられる時』

— 認知症の母が教えてくれたこと —

詩人　藤川　幸之助氏

1962年生まれ。長崎大学教育学部大学院修士課程修了。認知症の母親に寄り添いながら、命や認知症を題材に作品を発表するかたわら全国各地で講演。「満月の夜、母を施設に置いて」「まなざしかいご　認知症の母と言葉をこえて向かいあうとき」(中央法規出版)

扉

認知症の母を
老人ホームに入れた。
認知症の老人たちの中で
静かに座って私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた。
私が帰ろうとすると
何も分かるはずもない母が
私の手をぎゅっとつかんだ。
そしてどこまでもどこまでも
私の後をついてきた。
私がホームから帰ってしまうと
私が出ていった重い扉の前に
母がぴったりとくっついて
ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。
それでも
母を老人ホームに入れたまま
私は帰る。
母にとっては重い重い扉を
私はひょいと開けて
また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』

**主催／赤穂市社会福祉協議会**
**後援／赤穂市・赤穂市教育委員会・赤穂市自治会連合会・赤穂市民生委員児童委員協議会・関西福祉大学**

参加希望者は、申込書に受講料を添えて、赤穂市社会福祉協議会(総合福祉会館内　赤穂市中広267　〒678-0232　電話42-1397)または中央公民館・各地区公民館・市社会福祉課・関西福祉大学へ7月14日(木)までに申込下さい。参加券の郵送をご希望の場合は、参加費に80円切手を貼付した返信用封筒(宛名・住所・郵便番号を明記)を同封して赤穂市社会福祉協議会へ送付してください。

受・講・生・募・集

## ふれあいいきいきサロン実践講座

**日時**　6月24日(金)
午前10時～午後3時

**場所**　総合福祉会館
3階集会室

**内容**
**午前**　「ふれあいいきいきサロンを楽しく運営する」mottoひょうご事務局長　栗木　剛氏
**午後**　いきいきサロンを上手に運営する。おもちゃで遊ぶ。

**参加対象**　ふれあいいきいきサロンを現在運営している人や、新たに始めたい人・興味がある人

**定員**　50名

参加を希望する人は、6月21日までに社会福祉協議会(☎42・1397)まで申込みください。